

優秀賞

私立武蔵野東小学校

「令和元年 体育祭」

学校紹介

本校は、全校児童564人のうち173人が自閉的傾向児で、1977年の小学校開校当初から健常児と自閉症児が分け隔てなく共に学ぶ「混合教育」（インクルーシブ教育）を最大の特色としている学校である。武蔵野東学園として、関連する幼稚園、中学校、高等専修学校でも同様の教育が行われている。

取組概要等

【取組概要】

本校の「学年競技」は、学年全員で取り組む競技で、健常児と自閉症児が共に協力して行っている。学年によって競技内容（プログラム）が異なる。1年：ゴーゴートレーンリレー（大きなゴムバンドの中に健常児2名と自閉症児1名が入り、折り返しリレーをする）2年：やさしくはこんで（健常児2名と自閉症児1名で、その中に箱を入れ、落とさないように走るリレー）3年：台風の目（健常児3名と自閉症児1名で1本の棒を持って走るリレー）4年：足なみそろえて（健常児3名と自閉症児1名での4人5脚のリレー形式）5、6年：騎馬戦（健常児3名と自閉症児1名で騎馬を組み、帽子を取り合う）

【取組のねらい】

東京2020大会のビジョンでもある「多様性と調和」を日々実践している。

【創意工夫した点】

学年競技の練習は6月からペアを組んで練習を開始した。また、競技の練習だけではなく、ペアの友だちどうして一緒に給食を食べたり、遊んだり普段から交流をすることで、コミュニケーション力が高まり、9月末の体育祭時にはお互いが分かり合える状態で本番を迎えることができた。

【取組結果や効果】

この学年競技を毎年経験することで、個性ある友だちと関わり合う機会を通し、相手への気配りや思いやる気持ちが育ち、『違うことがあたり前』であることを学び、多様性を受け入れる心が養われている。

【来年度以降の展開予定など】

体育祭後も、交流できるレクリエーションや給食を定期的に学年で企画し、日ごろから健常児と自閉症児が交わる環境にあり、それが1年生から6年生までの6年間積み上げることができている。

プログラムの様子



開会式では、吹奏楽部の演奏で、入場行進をします。管楽器と打楽器が奏でる、軽快なリズムにのり、爽やかな秋空のもと行進をしました。



2年生の「やさしくはこんで」です。その中の箱が落ちないか、はらはらドキドキしながらも、いかにスピードを上げられるかに挑戦です。



1年生の「ゴーゴートレインリレー」です。ゴムバンドの中に入り、3人の気持ちを合わせて、スピード調整をします。



全校児童が参加する競技「大玉おくり」です。4列に並び、大玉を落とさないように送ります。紅白対抗で、競い合います。

スポーツ庁からのコメント

健常児と自閉症児が協力して取り組む競技を採用することで、障がいのある子どもたちもスポーツに親しめる機会を作り、障がい者のスポーツ実施率の向上につなげている点、また競技をきっかけにペア同士の日常のコミュニケーションも生まれており、スポーツを通じた共生社会の実現にも寄与している点が素晴らしい取組でした。

受賞のコメント

インクルーシブ教育の先駆的実践校として、毎年継続的に行っていることを評価していただき嬉しく思います。東京2020大会をきっかけに、ノーマライゼーションの考え方が広がることを願います。